仮設住宅を着工
――復興の第一歩――

東日本大震災

高田一中に200戸
被災者の希望を背に、各地に順次建設

被災者1200人が共同生活を送る陸前高田市立第一中学校の仮設住宅の建設が始まった。東日本大震災から8日目。太平洋沿岸の被災地で本県が最初に着工した。同校グラウンドには全部で約200戸を建設し、今月中にまず36戸分を超スピード工事で完成させる。このあと同市と大船渡市の各地にも順次建設する。県内の被災地全域では1万戸以上という過去最大の記録的な数に上るものとみられる。

着工式は、青空の下、午前10時から同校グラウンドで行われ、最初に尊い命を失った犠牲者に黙とうを捧げた。

発注者の県を代表し、水野尚光県沿岸広域振興局副局長が「県内で初めての着工で、順次、準備が整い次第各地で着手したい。被災者の方々の励みとなり、復旧復興の第一歩になればと思う」とあいさつした。

地元の戸羽太市長が「不自由や不安を強いられる中、多くの協力のおかげで着工となり、市民にとって心強い」と述べた。

建築を委託された㈱日本プレハブ建設協会の小黒昇一岩手県仮設住宅建設本部長が「一日も早く安心して生活できるよう総力を挙げて取り組みたい」と述べた。

建築作業は車を移動しながら行われた。

この日着工した36戸分は、今月中の完成を目指している。1世帯3～4人用の9坪（29・7平方㍍）2DKタイプで、4畳半2間とダイニングキッチン、トイレ、バス付き。同校グラウンドに建設する約200戸は、すべて同じタイプを建てる。寒さ対策で2重サッシにすることも検討中。

仮設住宅は現在、陸前高田、大船渡、釜石、宮古の各被災市から要望があり、このうち陸前高田市は市街地が壊滅的な状態で身を寄せる場が少なく、高田一中には多くの避難者がいることや、電気、水道、排水の点でも問題がなくスムーズに建設ができる立地条件も揃い、第1号の建設地となった。

同校体育館に避難している広田町の志田真梨子さん（32）は、「限界に近い状況で、ストレスや衛生面からも早く仮設住宅ができてほしい。足を伸ばしたい」と話す。

家が流された高田町の萩島剛太郎さん（75）は、「新潟地震の被災者の気持ちがいま分かる。仮設住宅の工事は機械化されていてすごく早い。今月中にできるという話ですが、大したものです」と驚きと喜びの表情でスピーディーな工事ぶりをじっと見守っていた。

同日着工した36戸分は、4月上旬から入居開始の予定。入居の募集は、市と協議しながら公平かつ被災者の実情を勘案しながら行うとしている。

県住宅建築課の西尾高登営繕課長は「今の段階では資材の搬入が滞っているが、できるだけ早く供給したい」と話している。

仮設住宅は、陸前高田市から4000戸、大船渡市から2100戸の建設が要望されている。第1号の高田一中のほかに、陸前高田市内は米崎小など8カ所、大船渡市内は被災していない小学校グラウンドなど23カ所が候補地として挙がっている。

県の仮設住宅の建設は、岩手宮城内陸地震で奥州市に建設した8戸が、これまでの最大。

今回の大震災で、県は当初、県全域で8800戸の計画だった が、被害や避難の甚大さから、「おそらく1万戸以上になる」と想定。1万戸は過去最大で、「できるだけ早く、状況に見合った仮設住宅を供給したい」としている。

着工式で犠牲者に黙とうをささげる工事関係者たち

内閣府も現地視察
小森参事官が気仙入り

災害復旧や復興活動を担当する内閣府の小森雅一参事官が19日、気仙両市に入り現地視察を行った。国としての対応策に生かそうと、行政関係者から現状報告を受けたほか、避難施設や被災地も回り、情報共有に努めた。

現地視察を行ったのは、小森参事官のほか、主濱了参議院議員、JA岩手県五連中央会の長澤壽一会長ら合わせて9人。このうち、大船渡市役所では毛布や衣類といった生活物資を手渡した後、戸田公明市長から被災状況について説明を受けた。

市内での死者数や倒壊家屋数、自衛隊などによる復旧活動の状況を説明した戸田市長は「最も大きな悩みは、電話が通じないこと。がれきの撤去作業は数カ月かかると予想されるが、被害状況をとりまとめ、その後の復興へのまちづくりを進めることも重要」と述べ、国として積極的に支援していく意向を示した。

その後は大船渡町の大船渡地区公民館を訪れ、生活支援物資を手渡しながら避難生活を続ける地域住民を見舞った。がれきが散乱する同町茶屋前地内も歩き、被害状況や捜索活動の進ちょく状況などを確認した。その後は陸前高田市内に入り、被災地の現状に理解を深めた。

対策急ぐ住居確保
雇用促進も避難者用施設に
気仙両市

大船渡市は、避難生活を送る住民が公的な既存住宅を利用できるよう調整を進めている。市内に3カ所ある雇用促進住宅は、緊急避難用施設として利用できる見通しがついた。市によると、管理する厚生労働省から通知が来たという。

同施設は雇用・能力開発機構が運営し、市内には大船渡町、盛町、赤崎町にそれぞれ80戸ずつ、計240戸ある。現在、入居募集は行っておらず204戸が空家となっている。盛は1階部分が津波による浸水被害を受けたため、同機構で今後使えるかどうか調査する。

雇用促進住宅のうち、市では将来的には盛町を買い取り市営住宅とする構想があった。避難先としての利用は、原則6カ月間というが、同本部では「できるだけ早く入居できる体制を進めていきたい」と話す。

市ではこのほか、これまで空室になっていた市営住宅9戸と、大船渡町上山にある市母子生活支援施設「つばき荘」11室の入居者募集を、17日まで行った。市内の避難所で過ごし、75歳以上か障がい者の世帯員がいることなどを条件とした。

市営住宅には107人（倍率11・8倍）が、つばき荘には58人（同5・3倍）がそれぞれ申し込み、18日に抽選が行われた。いずれも定員よりも申し込み数が大幅に上回り、早急な住宅確保対策が求められている表れとも言える。

また、市では応急仮設住宅の早期建設を県に働きかけている。地区別の入居希望状況を把握するため、市では各避難所に調査票を配布した。入居希望者は21日までに記入し、各地区ごとに定められている本部に届けるよう求めている。正式な入居募集は、後日行うという。

市が求めている設置戸数は約2100戸。大船渡町にある県立大船渡病院跡地をはじめ、ある程度の敷地を確保できる小中学校施設や都市公園など23カ所を候補地としてリストアップしている。

市内では平成10年以降各地でアパート、マンション建設が進み、被災しない地域でも現在空室となっている家屋は一定数ある。現在は使われていない社宅もあり、今後はこうした取りまとめのほか、避難生活者にどう振り分けるかなどの対応策が求められる。

陸前高田市では、仮設住宅を4000戸要望している。市対策本部が把握している家屋被害試算数約3600戸よりも上回るが「集合住宅も含まれるほか、実際には半壊状態で使えない家屋も加えたため」としている。

市内の公共住宅を見ると、市営住宅は308戸、特定賃貸住宅は16戸あるが、いずれも全室入居済み。陸前高田市高田町にある雇用・能力開発機構が運営する定住促進住宅は、80戸に45世帯が入居している。ただ、市営住宅のうち74戸が津波被害を受けており、こうした被害施設の入居者支援も今後重要となりそうだ。

独自の仮設住宅建設へ
住田町

気仙両市への救援物資搬送など被災地支援に全力を尽くす住田町。被災者受け入れに向け、町独自の仮設住宅建設へ向けた動きを本格化させている。

同町が建設を予定する仮設住宅は、町産材を使った組み立て型で木造二戸建て（約29平方㍍）。大規模災害に備えてこれまで試作研究を進めていたものという。

町有地で上下水道との接続が容易な場所をリストアップしており、準備が整い次第まずは10戸を建設する。この10戸は町の第3セクター・住田住宅産業が建設、以降は町内業者らに委託する方向という。

多田欣一町長は「最終的に何戸建設するかはこれからの検討となるが、気仙の被災者の皆さんをできる限り受け入れるのが、住田町の役割だ」としている。

また、町職員、行政連絡員、町議らが町内の空き家の情報収集を展開中。これらの入居については役場でのあっせんは行わない見込みだ。

避難者507人に
同町災害対策本部によると、19日正午現在、町内には陸前高田、大船渡、釜石、大槌、宮古の各市町などから親類を頼るなどして507人が避難している。

亡くなった町民はこれまで釜石市内で2人、陸前高田市内で3人の計5人を確認。安否不明者は11人となっており、引き続き情報収集にあたっている。

ライフラインは一部地域を除き、電気、水道、ガスは使用可能。電話は固定、携帯とも不通状態が続いており、NTTが世田米の農林会館内に衛星無料公衆電話を設置。町民に対しては住田テレビで生活情報などを随時伝えている。

救援物資中継の役割を本格化させており、18、19日も県や民間の車両が相次いで到着。19日までに気仙両市に対し、食料や生活用品のほか、灯油1600㍑、ガソリン160㍑など燃料の搬送も始めている。

きょう風呂 無料開放
遊林ランド種山

奥州市境の遊林ランド種山では、20日午前9時から午後5時まで、被災者に対して入浴施設を無料開放する。

送迎は行わないため各自での移動が必要。施設を運営する町の第3セクター・住田観光開発の千田明雄社長は「燃料が続く限り無料開放を続けたい。被災地のみなさんを送迎できるよう、輸送手段確保も図りたい」としている。

大船渡市
犠牲者数は697人
大船渡では避難者が減少

大船渡市によると、19日午前11時時点での市内死者数は220人。捜索活動で新たに遺体が見つかったため、前日よりも10人増えた。18日から19日にかけての新たな身元判明者はなかった。

安置場所は大船渡町内では西光寺と本増寺、盛町は洞雲寺と浄願寺、末崎町は麟祥寺、立根町は安養寺と第一中学校体育館、日頃市町は長安寺、三陸町は越喜来中体育館、同町綾里は宮野地区多目的集会施設の計10カ所。立根町のおおふなと斎苑と三陸町越喜来の浄霊苑、一関市千厩町の千厩斎苑で火葬が行われている。

行方不明者は191人、建物被害の全壊・半壊は3629戸。捜索活動はこれまでの8班体制から5班体制となり、三陸町越喜来の泊地区を除いて市内全域で目視確認がほぼ終了した。現在は重機を使った遺体捜索、がれき撤去が進められている。

避難所は市内に53カ所あり、避難者数は5169人。前日よりも7カ所、3600人余りそれぞれ減少した。

市では実際に施設内で寝泊まりしている住民だけを抽出し、避難者数として数え直した。これとは別に、燃料不足や停電が続く中、食事配給時などだけ利用する住民は2622人となっている。

各避難所での運営にあたる市職員や消防団員らを加えると、8800人余りとなる。また、立根小の避難住民が、被害や避難の甚大さから、「おそらく1万戸以上になる」と想定。1万戸は過去最大で、「できるだけ早く、状況に見合った仮設住宅を供給したい」としている。

亡くなられた方々
―19日分―

陸前高田市と住田町が19日に発表した新たな犠牲者と安置場所は次の通り。（安置場所は変更となる場合があります）

【陸前高田市】

▽米崎中学校

柴田元見、熊谷シズカ、坂本丞司、伊藤チヨノ、千田武雄、小泉キンイチロウ、菅野博、中里繁雄、小林すみ子、千田博、金野スマエ、砂田昭四郎、今野タスケ、熊谷アツマ、大本靖子、水野三次、土屋みき、佐藤明、オイカワクミコ、キクチカズノリ、菅野一弘、村上直樹、村上慧悟、菅野孝太、戸羽セツ子、及川一洋

▽下矢作小学校

大塚郁子、佐々木留作、佐々木茂彌、東深雪、村上祐一、前田研太郎、菅野勝男、佐々木徳司、今野準一、菅野智之、新田琳、脇坂育子、佐々木悠真、畠山英弥、佐々木博正、脇坂絵理

▽矢作小学校

伊勢直善、及川充、佐藤正年、石川恭隆、村上吉信、伊東孝義、吉田チエ、吉田盛子、菅野泰成、伊藤希、小嶋三男、金濱ミエ子、伊藤公雄

【訂正】

19日付1面、本欄大船渡市分の氏名中、西光寺に安置されている「森貴夫さん」は「鈴木和加子さん」でした。

（市対策本部発表）

安否情報伝言メモ

大船渡市

▽大船渡市末崎町神坂の原田剛、智栄子、未来子、麗子、みんな無事です。避難場所は赤崎町中井、今川博宅にいます。

▽上野實さん（70）＝大船渡町野々田＝の安否について情報をお持ちの方は、東海新報社（TEL27・1000）まで連絡を。

▽新沼英樹（23）。捜しています。母は元気でいるので連絡してください。大船渡北小にいます。

▽高田高校3年、村上郁巳は大船渡市猪川町富岡の出羽彰（叔父）の所に元気でいます。

▽末崎町内田、村上丑蔵、キクノ、テイ子、カナ、ハルカ、タケヒロ、シゲル、みな無事です。盛町沢川に居ます。

▽箱石夏子、悦子、はるか（山田町大沢TEL0193・82・6521）、佐藤優、雄一、アサ子、かおり、あやなた（同町境田8の11）、宇都宮洋二（大槌町桜木町15の22）の安否情報を知りたい（依頼者・末崎町山根、箱石邦彦）

▽浜田屋、濱田幸成は無事です。現在、猪川町長洞14の7、千葉洋宅（TEL27・6151）に居ります。（TEL0190・9747・1202）

東海新報

発行所
㈱東海新報社
〒022-0002 大船渡市大船渡町字鷹頭9-1
電話番号 0192-27-1000㈹
ファクシミリ 0192-27-2154
振替口座 02300-9-188

©東海新報社

東海新報Web
http://www.tohkaishimpo.com/

きょうの紙面

千昌夫さんが被災地を訪れ、ふるさとにエール送る……2面
大津波、海が呑み込む瞬間を撮影。がれきの街、グラフで…3面
過酷な日々に希望、津波後に新生児誕生、すくすくと……4面

本紙は、11日に発生した東日本大震災の影響で、13日から4ページ建て新聞を発行しています。3月いっぱい、**無料**で配布させていただいています。ご了承ください。

東海新報社

安否情報・伝言メモ

本紙は、安否情報や伝言メモを本社で随時受付しています。紙面をご自由にお使いください。また、窓口に当日発行紙を置いています。避難場所でもご覧になれます。